

水曜通信11

東北学院宗教センター編

2021年
10月

LIFE

LIGHT

LOVE



「5つのパンと2匹の魚」
(マルコによる福音書 6:30-44)
田中 忠雄作 1987年

「5,000人の給食」の場面。
5つのパンと2匹の魚を賛美の祈りによ
って5,000人分の食事にするイエス。

第5回
泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介

「人格を養う」

私たちは、物事を概念化したり、定義化することを好むが、世界には理屈で説明してもその真の姿を捉えることのできないものがある。「生きがい」とか「張り合い」、あるいは「人格」という言葉もその典型であろう。なるほど語源を調べ歴史的な用法を解説し、各学問領域から説明しても、「人格陶冶」、「人格形成」そのものは、個人の中でどのように進展しているのかを語ることは到底不可能であり、そもそも千差万別である。

翻って、東北学院の建学の精神である「個人の尊厳の重視と人格の完成の教育」も、どのようにしたらこの教育目標を実現できるかは、そもそも対象となる一人ひとりの体験やその証言によって確認するしかない。だからある識者は、「人格を養う」とは人格者と呼びうる過去の人々やその働きから学び取って身に付けるものであると言っている。その点で、本学の建学の精神が「宗教改革の『福音主義キリスト教』の信仰に基づく」教育と謳っていることは重要なことである。聖書から、さらに16世紀以後の福音主義キリスト教の歴史とその教えに生きた人々を土台としているからである。



東北学院宗教センター主任（宗教部長）野村 信

次回：第46回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)
10月20日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：田島 卓（本学文学部講師）

奏楽：菅原 淑子（本学礼拝オルガニスト）

【第2部 音楽による賛美】

演奏：菅原 淑子



第45回 水曜公開礼拝報告（説教：川島 堅二、奏楽：渡辺 真理）

2021年9月29日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：187番「主よ、いのちのこぼを」

聖書：ヨハネによる福音書 14章27節

讃美歌：391番「ナルドの壺」

説教：「主イエスが与える平和」

頌栄：542番「よをこぞりて」



【説教要旨】

ヨハネ福音書14:27で主イエスは「わたしはあなた方に平和を残す。それは世が与えるように与えるのではない」と述べています。主イエスが私たちに与えてくれる「平和」とは何かというのが、今日のメッセージの主題です。この世が与える平和とは一言で言えば、戦争のない状態です。これに対して、主イエスが与える「平和」とは第一に「神との和解」であり、それに基づいて私たち人間が互いに罪を赦し合うことによって実現する「平和」です。聖書は、人の罪、神に背反する人の姿を示すとともに、その神との和解の道を主イエスが開いてくださったことを語ります。この「和解」としての「平和」こそ、この世が与える平和とは異なる、主イエスが私たちに残してくださった「平和」なのです。

（本学総合人文学科長 川島 堅二）

前奏：クレランポー作曲 ナザール管のレシ(第2旋法による組曲より)

後奏：クレランポー作曲 グラン・ジュによる奇想曲(第2旋法による組曲より)

クレランポー（1676年～1749年）はJ.S.バッハとほぼ同年代に活躍したフランス古典期の作曲家です。1710年に「第1旋法の組曲」「第2旋法の組曲」の、宗教色よりも旋律美の追究に優れているそれぞれ7曲から成る曲集を出版しました。作品の前書きは音色を表していて、前奏は柔らかいナザール管で装飾音を多用し舞曲風に、後奏のグラン・ジュは華やかな音色による重厚なフーガになっています。

（本学礼拝オルガニスト 渡辺 真理）



礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：渡辺 真理）

1. セザール・フランク作曲 前奏曲、フーガと変奏曲
2. サン＝サーンス作曲 ギルマン編曲 白鳥(動物の謝肉祭より)

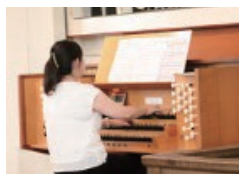
今年はフランスの作曲家サン＝サーンス（1835～1921）の没後100年に当たります。また、セザール・フランク（1822～1890）はパリのサン・クロチルド教会のオルガニストを終生務めた作曲家です。この2人はパリ音楽院のF・ブノワの元で学んだ兄弟弟子で、同時期にオーケストラの響きを理想としたオルガン製作者のカヴァイエ＝コルの功績もあって、教会音楽を越えたオルガン作品を作曲しました。

昨年2月にクロチルド教会を訪れる機会があり、あらためてフランクの作品を弾いてみたくなりました。土樋キャンパスのオルガンは非常に美しいオーボエの音色を持っていますので、フランクが友人サン＝サーンスに贈った「前奏曲、フーガと変奏曲」、そしてサン＝サーンス作曲の「動物の謝肉祭」の中から、同年代の作曲家ギルマン（1837～1911）により編曲された「白鳥」を演奏しました。

（渡辺 真理）



サン・クロチルド教会



東北学院の草創期 (10) 「最初の学生」

① 西堀 幸八

西堀は青森県の出身ですが、原籍は北海道余市郡と記されています。28歳で札幌教会にてタムソン宣教師から洗礼を受け、3年後の1886年に仙台神学校に入学します。入学時にはただ一人30歳を超えており、ホーイよりも年長でした。

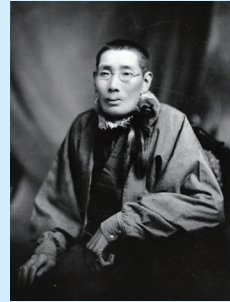
西堀は10歳以上も年下の同級生と一緒に勉学を重ねるよりは伝道の実践に出ることを願ったのか、1889年には神学校を退学して押川が開拓伝道をした室蘭講義所の伝道師として赴任しました。翌年からは伊達紋別も兼任しましたが、「親戚の迫害甚だかりしを以て」(『信仰三十年基督者列伝』) わずか2年で釧路に移住し、教籍を聖公会に移しました。

西堀は実業に転じてからも教会員としての責任を忠実に果たし、私立釧路幼稚園を設立して自ら園長として聖書の話をするなど、キリスト者としての生涯を全うして、1927(昭和2)年5月に亡くなりました。

『東北学院時報』は、寄付者の欄に繰り返し西堀の名前を挙げ、中学部校舎の再建(1922年)や専門部校舎の建築(1926年)に際しても、それぞれ数百円という多額の寄付をしたことを報じています。

1988(昭和63)年に弟子屈におられたご遺族を訪問した際には、植村正久や井深梶之助等の署名がある愛用の聖書を寄贈していただきました。釧路の墓石に刻まれた「聖名ヨブ」が心に残っています。

(東北学院史資料センター 日野 哲)



晩年の西堀

建築が語る東北学院の歴史 (5)

登録有形文化財への登録が決定した土樋キャンパスの正門には、珍しい特徴があります。一般的に西洋風の門では、互いに独立した2本の主門柱と2本の脇門柱(4本の門柱)が門扉を吊ります。これに対して本学の正門は、主門柱・脇門柱が一体的に(ゲートのような形式で)デザインされているのです。東北大学片平キャンパスに残る旧制二高の正門や旧東北帝大の正門と比べると、違いは一目瞭然です。このようなデザインにより、土樋キャンパスの正門は、大きく、堂々とした印象を与えるものとなっています。

なぜ設計者Jay H.モーガンはこのようなデザインに到達したのでしょうか。そのヒントは、実現されなかった幻の正門案(Fig.1)にあります。土樋キャンパスは地形上、広瀬川に向かう南北方向の奥行きが浅くならざるを得ません。したがって、長い象徴的なアプローチはつくれません。この点を考慮してか、モーガンは当初、門に守衛室や機械室が合体した、建築的な門を構想しています。結果的にこの案は実現されませんでした。その名残が、現在の特徴的な形式につながったと見做されるのです。

(工学部 崎山 俊雄)

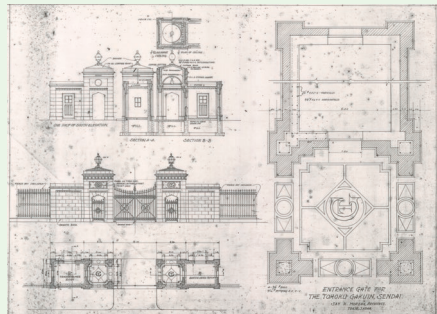


Fig.1 幻の正門案

ゲルハート記念室とパウル・ゲールハルト（1）



ゲルハート記念室

東北学院の土樋キャンパス。正門の奥の本館に向かって左の大学院棟（以前は図書館でした）には、ゲルハート記念室があります。このゲルハートとはランカスターからの宣教師で、一家で40年に渡って東北学院の英語教育に尽くしたゲルハート家を記念して命名されています。初めに1897年にホーイの勧めで東北学院に着任したのが宣教師ポール・ゲルハート（1873-1949）、仙台生まれの長男のロバート（1904-63）もまた、そしてポールの妹のメアリ・エンマ・ゲルハート（1878-1963）も、兄ポールを追って宣教師となり1905年9月に東北学院に赴任しました。



1905年12月のゲルハート家
左からメアリ、ポール、
ロバート、ポール夫人

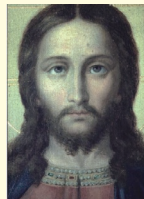
驚くべきことに、このゲルハート家は、バロック時代のドイツ・プロテスタントの詩人で、マルチン・ルターに次ぐ重要な讃美歌作詞家パウル・ゲールハルト（Paul Gerhardt 1607-76）の子孫なのです。

（理事長特別補佐 鐸木 道剛）



パウル・ゲールハルト
1936年刊行の評伝

美術による賛美（8） — 神様を描く —



この4つのキリスト像は描かれた時代も場所も違います。しかし画家たちはどれもイエス様のお顔を描いています。神様はイエス様として人となられました。だからイエス様として神様は描くことができます。イエス様の正しい肖像画はマンディリオンと呼ばれるタオルに写った顔です。画家が描いたのではなく（人の手によらず）、機械的に写っているから歪みがなく正しい肖像画です。画家はそれを模写しました。しかし画家の技術は不完全だから、どうしても描いた結果は違ってしまいます。それを近代になると、人間中心主義で、描いた画家の時代の違い、場所の違いを見て、芸術を理解したつもりになります。しかしその前に、芸術とは、画家が自分を表現するのではなく、神様を描くことであったことを忘れてはなりません。右端は山下りん（1857-1939年）が描いたアイコンです。高清水のハリスト正教会にあります。彼女は自作にサインもせず無名に徹しました。（鐸木 道剛）



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第11号

2021年10月8日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村 信

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp